

# 「北陸新幹線敦賀開業に向けた敦賀市行動計画」実施結果

## 1. 趣旨

北陸新幹線敦賀開業に向けて行政・民間企業・関係団体などが一丸となって、開業効果を最大限に引き出すために策定した「北陸新幹線敦賀開業に向けた敦賀市行動計画（R1～6）」の計画期間終了に伴い、今回、各分野に横断する施策の実施結果について、以下の通り報告する。（詳細は別表 行動計画調査票を参照）

## 2. 行動計画の基本方針（A～E）に基づく実施結果【主な担当課】

### （A）市内の拠点整備と回遊性向上

#### A-1市街地および観光拠点の整備【まちづくり・商工貿易】

- ・金ヶ崎エリアの公園・駐車場整備については、計画通りに進捗。民間エリアは資材高騰等の影響もあり、計画を見直して実施予定
- ・ムゼウムの企画展やプロジェクションマッピングは計画通り実施
- ・氣比神宮周辺において、神宮前公衆便所の洋式化を実施。神楽町多目的広場の利用促進や、市街地の空きビルを再生

#### A-2玄関口としての駅周辺整備【まちづくり・交通政策】

- ・敦賀駅周辺エリアについては、駅前広場や周辺道路の整備完了
- ・駅交流拠点施設については、官民連携により賑わいを創出

#### A-3来訪者が快適に過ごすための環境整備【商工貿易・交通政策】

- ・キャッシュレス決済環境を充実（導入10件）
- ・バス利用者の利便性向上として、交通系ICカードを導入（乗車人数17%増）
- ・来訪者向けの案内・誘導サイン設置

#### A-4市内を巡る二次交通の整備【交通政策】

- ・ぐるっと敦賀周遊バスの運行（乗車人数70%増）
- ・シェアサイクル拠点の整備として、サイクルポートや電動自転車を拡充（利用回数77%増）

### （B）マーケティング戦略とプロモーション

#### B-1来訪者への敦賀の魅力調査【観光誘客】

- ・プロモーションに向けたニーズ調査として、敦賀市へ訪れた来訪者へのアンケートや周遊バス利用者への満足度調査を実施

#### B-2敦賀の魅力の再認識【観光誘客】

- ・一般公募により新幹線誘客キャッチコピー「つるが、発見！」を決定
- ・市民の意識醸成として、広報紙発行（月1回）や観光に関する出前講座を実施。
- ・市民出演の開業CM・高校生によるカウントダウンボード設置
- ・観光ボランティアガイド派遣による講座開催（72回）

### **B-3来訪者を受け入れる準備【観光誘課・商工貿易】**

- ・敦賀独自の体験観光メニュー開発支援（10件）
- ・つるが旨いもんマップ作成・配布
- ・ホテル・旅館の受け入れ環境整備として、HPや窓口等で補助制度の周知・支援（実績8件）
- ・まちなかの店舗等の魅力向上の取り組みを支援（採択63件）

### **B-4多様なメディアを活用した、敦賀情報の発信【観光誘客】**

- ・プロモーション計画を策定（R3）し、SNSなど多様なメディアを活用したPR
- ・開業の1年前や100日前などにプレイベント、開業日に「つるが街波祭」開催
- ・商談会や物産展を開催し、首都圏等に販路拡大

### **B-5開業後を見据えたプロモーションの推進【観光誘客】**

- ・デスティネーションキャンペーンとの共同PRや、大阪・関西万博に向けて体験型コンテンツ用意（昆布かき体験など）

## **(C) 高速交通基盤を活かした拠点性の強化**

### **C-1広域連携の推進【観光誘客】**

- ・インバウンド誘客として、台湾・タイで商談会を開催
- ・観光ガイドマップの多言語化やアプリを活用してクーポンを発行（ふく割等）
- ・サイクリングの走行ルートの路面標示やサイン、ゲートウェイ等のハード事業及び地域向け講座や自転車イベント、モニターツアー等のソフト事業の実施

### **C-2教育旅行・撮影などの誘致【観光誘客】**

- ・教育旅行・学生合宿の誘致として、全国から学生合宿を誘致（R4:15校、R5:12校）。修学旅行などで民間企業と連携し、民泊を受入

## **(D) 敦賀の特色を活かした商業・産業活性化**

### **D-1敦賀らしい特産品・土産品の研究・開発・販路拡大【商工貿易・農林水産】**

- ・敦賀真鯛・敦賀ふぐのブランド化を進め、県内外へPR発信。活魚車・活魚水槽の導入し、さらなる販路拡大
- ・観光客向けに「おもてなしパスポート」作成・配布

### **D-2空き店舗解消の推進【まちづくり・商工貿易】**

- ・まちなか創業の推進を図るため、中心市街地の店舗情報を収集し、ホームページにて発信、店舗見学会を実施

### **D-3拠点性を活用した産業基盤の構築【商工貿易】**

- ・R3年度に第2産業団地の全区画売買契約完了
- ・サテライトオフィスの整備を支援（4件）、誘致戦略（R6年度策定）に基づきプロモーションを展開

## (E) ホスピタリティあふれる敦賀人の育成

### E-1敦賀市民のおもてなし意識向上【観光誘客・生涯学習】

- ・観光事業者などへのおもてなし力向上に向けたセミナーや研修会を開催
- ・おもてなし活動として、開業日～ゴールデンウィークの土日祝日（計20日間で100名を超える高校生参加）
- ・観光ボランティアガイドの活動として、ガイド関連学習環境の充実や街歩きモデルコースの企画・運営、市民・店舗向け観光冊子の作成・配布し、出前講座に活用
- ・敦賀の観光に関する講座として、日本遺産現地学習事業を実施（R5：市内外から44名参加）
- ・北陸新幹線敦賀開業歓迎のおもてなし運動として、花のプランターを設置  
（R5：市内10カ所）

### E-2インバウンドへの対応【観光誘客】

- ・外国人観光客へのおもてなしの向上として、クルーズ船の寄港時に商店街や地元高校生らと協力して歓迎イベント等を実施。（入港数 R5:1回 R6:2回 R7:9回予定）

### E-3民間と行政の連携体制強化【観光誘客】

- ・官民連携の体制づくりとして、行動計画の進捗確認や計画を見直し・情報共有
- ・開業日に「つるが街波祭」開催（約43,000人来場）
- ・まちづくり人材を発掘し、3期で65人のプレーヤーを育成

### E-4移住者の受け入れ・支援【住宅政策課】

- ・移住定住の促進に向けた情報提供について、空き家・空き地情報バンクの運営  
（153件の新規バンク登録、101件成約）
- ・移住定住促進HPの掲載情報を充実させるため、改修を実施し、アクセス数増加
- ・3世代ファミリー一定住支援として、9件を補助（30名の移住者）
- ・新婚・子育て世帯と移住者への住まい支援として、39件の補助（13名の移住者）

### E-5誰もが楽しめる魅力的なイベントやまつりの開催【まちづくり・観光誘客】

- ・まちなかの賑わい創出を創出するためのイベントを開催
- ・中心市街地での賑わい街づくりを支援
- ・「つるが観光物産」イベントや「人道の港 敦賀ムゼウム」のリニューアルイベントを開催

### 3. 行動計画の目標値に対する結果

①敦賀駅乗降客数は、年間 330 万人を見込みます。

北陸新幹線敦賀開業に伴う、敦賀駅の利用者数

現状値 (参考)	261 万 9 千人 (2017 年度)	→	目標値	330 万人 (2024 年度)
-------------	----------------------	---	-----	------------------

現状値出典：敦賀市が西日本旅客鉄道（株）に独自に行なった聞き取り調査  
目標値算出方法：関連計画である「都市再生整備計画」（現在国へ申請中）における平成 35 年度の乗車人員数の目標値、4,510 人/日をもとに、年間の乗降客数を設定した（乗車人員数と降車人員数は同数とする）。



結果	391 万 4 千人 (2024 年度)
----	----------------------

②観光入込客数は、年間 419 万人を目指します。

北陸新幹線敦賀開業後の、敦賀市内観光施設への入込客数

現状値 (参考)	222 万 8 千人 (2017 年)	→	目標値	419 万人 (2024 年) (253 万人)
-------------	---------------------	---	-----	-----------------------------

現状値出典：福井県観光客入込数（推計）  
目標値算出方法：上段の目標値は、第 7 次敦賀市総合計画における KGI（重要成果指標）として示されている 2024 年度目標値との整合を図り設定した。  
<参考>令和元年観光客入込数調査において、本市内の計測地点を 3 地点増やしたことに伴い、3 地点分の入込数が増えた。下段の（ ）内の値は、本計画策定時の目標値であり、増加した 3 地点における入込数を除いた値である。



結果	425 万人 (2024 年) (275 万人)
----	-----------------------------

③中心市街地の歩行者・自転車通行量（休日）は、1 日あたり 6,700 人を目指します。

来訪者増加による中心市街地のにぎわい創出に伴う、休日の中心市街地（5 地点）の歩行者・自転車通行量

現状値 (参考)	5,799 人 (2018 年度)	→	目標値	6,700 人 (2024 年度)
-------------	-------------------	---	-----	-------------------

現状値出典：敦賀市歩行者・自転車通行量調査  
目標値算出方法：2009 年度～2018 年度の歩行者・自転車通行量の年間の増加率が 1.7% であることから計画期間における毎年の増加率も同様とし、かつ新幹線開業に伴う乗降客数の増加分（25%）のうち、徒歩または自転車により移動する人の割合を 6%（増加分の 1/4）とし、開業年度の増加率は 6% を加算し、2018 年度の数値（5,799 人）からの増加として設定した。



結果	6,760 人 (2024 年度)
----	-------------------